

## 課題の概要

- 課題名 「社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成」  
○総括責任者名 「結城章夫」  
○機関名 「国立大学法人 山形大学」  
(実施予定期間：平成21年度～平成25年度)

### 機関の現状

山形大学では、「自然と人間の共生」、「地域に根ざし世界を目指す」をリーディング・コンセプトとして、地域社会と一体となった教育プログラムの実施など地方総合大学としてユニークな教育研究活動を展開してきた。研究に関しては、文部科学省グローバルCOE拠点「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」、科学研究費補助金特別推進研究「大型偏極ターゲットを用いたハドロンクォーク・グルーオン構造の研究（COMPASS国際共同研究）」、及び「有機エレクトロニクス研究拠点」など世界的な研究拠点が形成されつつある。特に、有機エレクトロニクス研究拠点は、全国でも例のない、山形県が県費を投入し推進している「有機エレクトロニクスバレー構想」の中核的研究拠点であり、これまで文部科学省都市エリア産学官連携促進事業、NEDOの国家プロジェクト研究などの研究資金を獲得し、この分野で世界をリードする研究が展開されている。

若手研究者の育成に関する取り組みとして、学長自ら推進する結城プラン（山形大学アクションプラン）の策定・実施により、若手教員に対する研究費支援、アドバイザー制度による支援等を実施している。

### 人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

本事業をテニユア・トラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。国際公募により教員を公募し、任期制を導入する。国際的な競争下で新領域の開拓ができ、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。具体的には、国際公募によって9名の特任助教を採用する。本プログラムの3年目と終了時に研究・教育・マネジメント能力の評価結果を基に審査し、テニユア・ポストとして准教授9名を採用する。研究環境整備、育成のための取組みとして、スタートアップ資金・研究費の配分、アカデミック・アシスタントの配置等を行う。特任助教1名は大学独自の取組として進める。また、研究実践能力向上、教育技術力向上、マネジメント能力の向上を促す各種取り組みにより自立支援を行う。機関全体としての将来的な構想「テニユア・トラックプログラム推進会議」を常設化し、育成プログラムを継続実施する。

### ミッションステートメントの概要（様式1-4を要約すること。）

理工学研究科を「テニユア・トラック推進特区」に選定して、国際公募により教員を公募し、任期制により9名の特任助教を採用する。本事業をテニユア・トラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。新領域を開拓するフロンティアスピリットを持ち、卓越した社会的知性（Social Intelligence quotient: SQ）能力を駆使して研究チームを強力に牽引していく、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。3年目終了時までには、①研究能力開発サポーターシステム構築等による研究実践能力向上、②英語による大学院講義の授業実践等による教育技術力向上、③社会的知性（SQ）能力開発等によるマネジメント能力の向上に関する取組を実施する。終了時には、教育・研究・マネジメント能力向上成果の公表、学協会活動の積極的参画、テニユア・ポストへの就職（終了時5名、8年度目までに9名）、プログラムの活動・成果の情報発信を目標とする。

# 社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成(実施体制)

学 長(総括責任者)

外部  
評価

アドバイザー・ボード

YU-COE推進本部  
本部長:学長

テニユア・トラックプログラム(TTP)推進会議  
TTP推進総合調整・決定機能

テニユア・トラックプログラム(TTP)推進室

プログラム・オフィサー:プログラムの統括  
シニア・メンター:メンタリング統括・メンター教員と連携  
SQトレーニング・コーチ:社会的知性(SQ)能力開発実施

研究プロジェクト戦略室:  
プログラム実施支援  
人事制度・組織文化改革の企画立案

SQ能力育成

テニユア・トラック推進特区

育成環境支援

テニユア・トラック教員:特任助教 9名(うち自主取組1名)

教育研究能力育成

理工学研究科「有機デバイス工学を中核とするものづくり研究拠点」

# 社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成(実施内容)

## テニユア・トラックプログラム(TTP)推進室

社会的知性(SQ)  
能力育成

育成環境支援

## テニユア・トラック推進特区

### 特任助教 9名(うち自主取組1名)

○スタートアップ資金支援(1・2年目)  
○アカデミック・アシスタント支援 1名

○研究費支援(3-5年目)  
○メンター教員(各1名)によるメンタリング

○研究スペース支援

### 教育能力の向上

教育研究能力育成

### 研究能力の向上

- ◆英語による大学院講義FD
- ◆大学院学生指導

- ◆競争的資金獲得FDの実施
- ◆研究者倫理教育プログラム
- ◆産学連携スキル支援

理工学研究科「有機デバイス工学を中核とするものづくり研究拠点」

## ミッションステートメント

提案構想名	社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成
総括責任者名	結城章夫
提案機関名	国立大学法人 山形大学（実地予定期間：平成 21 年度～平成 25 年度）

### （１）人材養成システム改革構想の概要

本プログラムでは、理工学研究科を「テニユア・トラック推進特区」に選定して、国際公募により教員を公募し、任期制を導入する。本事業をテニユア・トラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。この中で、国際的な競争環境の下、将来を見据え新領域を開拓するフロンティアスピリットを持ち、卓越した社会的知性（Social Intelligence quotient: S Q）能力を駆使して同僚研究者・スタッフを共鳴鼓舞させ研究チームを強力なリーダーシップで牽引していく、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。これを実現することにより、多士済々な若手研究者が集積するユニークな世界的研究拠点を目指す。プログラムの円滑な実施を図るためプログラムオフィサーを、教育・研究・マネジメント能力向上のため、シニアメンター、S Q トレーニングコーチを配置する。

### （２）３年目終了時における具体的な目標

- ①チェンジマインドを持った若手リーダーの育成：先端融合分野に挑戦する研究意欲や能力、高潔な研究者倫理意識を高めるとともに、競争的資金獲得スキル、産学連携実践スキル及び知的財産管理に関する知識の獲得・向上を図る。希望者には短期の海外研究武者修行の機会を与える。シニアメンター及びメンター教員による研究能力開発サポートシステムを構築し、研究の実践能力の向上に努める。
- ②英語による大学院講義の授業実践による教育技術力の向上：大学院専門科目講義の授業実践 F D を実施し、担当教員及び受講院生の評価を受け、授業改善方法など教育技術力を向上させる。
- ③卓越した研究チームリーダーとしてのマネジメント能力の向上：S Q 能力開発や国際会議の運営参画、経営協議会等諸会議の陪席による気づきを通じ、マネジメント能力を向上させる。

### （３）実施期間終了時における具体的な目標

- ①教育能力・研究能力・マネジメント能力の向上の成果を公表する。特に、S Q 能力開発については、高い研究業績を生む手法、その獲得プロセスの内容等を明らかにする。
- ②学協会のシンポジウム、国際会議の企画運営に参画する。
- ③テニユア・ポストに就職する（実施期間終了時 5 名、8 年度目までに 9 名）。
- ④終了時、本プログラムによって形成・検証されたテニユア・トラック制度等プログラムの活動・成果を内外に情報発信する。

### （４）実施期間終了後の取組

実施期間終了後も、テニユア・トラックプログラム（T T P）推進会議を常設化し、育成プログラムを継続実施し、変革し続ける仕組みを内蔵する経営マネジメントを展開する。なお、運用財源は、運営費交付金や各種競争的資金によって充当する。

### （５）期待される波及効果

社会的知性（S Q）能力開発をその育成内容のひとつの柱としつつ、研究能力、教育能力及びマネジメント能力の向上を同時に実現しようとする本学のチャレンジは、若手人材養成システム改革の流れを変え、新規性かつ汎用性のある取組として、先導的な役割を果たす。